

頑張る浜高生を誇りに思う

校長 西藤昌裕

県総体が終わりました。今年は第54回大会、県内48校を代表する選手6,540名が全29競技において県内各地で熱戦を繰り広げました。浜高の選手諸君も中国5県で開催される地元インターハイの出場権の獲得を目指し、勝利のために全力を尽くしました。県総体は、県内各校が各競技で獲得した得点の累計を競う、いわば「学校力」を競う学校対抗戦でもあるので、この大会にかける各校の意気込みは一際強いものがあります。また、3年生部員にとっては最後の大会となるとの思いもあって、今年も数々の感動のドラマが生まれました。

今年の浜高は男女総合第7位という成績で、昨年度の総合3位には及ばなかったものの、体操部30年ぶりの男女団体アベック優勝をはじめ、選手諸君の健闘により「浜高ここに在り」を県下に知らしめることが出来ました。各学年6クラス（普通科5クラス、理数科1クラス）となった平成21年度以降では、昨年に次ぐよい成績でした。生徒数が減少するなか、他の大規模公立高校やスポーツに力を注ぐ私立学校に伍してのこの成績は、一人ひとりが高いレベルで勉強と部活動の両立を目指す浜高生の底力を改めて県内に示したものです。

今後も、インターハイ出場をかけた陸上競技部・水泳部の中国高校選手権、硬式・軟式両野球部の全国選手権予選、吹奏楽部・合唱部の全国コンクール予選と大会は続いていきますが、県総体の好結果の後押しを受け、各部とも良い成績を上げてくれるものと期待しています。

さて、今回の県総体の結果は、個人によって、またチームによって受け止め方は様々でしょう。もっとよい結果が残せたのという後悔の念、或いは日々の努力がやっと実ったという達成感など、特に3年生の皆さんの心中は察するに余りあるところです。しかしながら、結果も勿論ですが、何より大切なのはその過程（プロセス）です。皆さんが「高い理想と誠実な努力」の教育目標のもと、勝利を信じて日々努力するなかで身に付けた力は、きっとこれからの高校生活においても大きな力となる、また自らの人生を切り拓いていく強い力となると信じています。部活動で培った集中力と持続力をもとに、3年生の今後さらなる学力の向上を期待します。そして、1・2年生の諸君は、先輩たちの思いや願いをしっかりと受け止め、今度は自分たちが中心となって浜高の部活動を盛り上げていくとの決意で部活動に励んでほしいと願っています。

県総体ご苦労様でした。私は浜高生みんなの健闘を誇りに思います。さらに浜高生全員の力を結集して、今後の浜高祭、そしてセンター試験もよい結果を残しましょう。浜高生頑張れ、みんな頑張れ。

(県総体報告会労いのことば 平成28年6月記)

